

# 令和4年度学校評価実施状況報告書

## 1 学校評価の流れ

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取組に対する中間評価を行い、2月下旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にそれぞれアンケートを実施した。

それらの集計結果等を参考に、2月下旬には各校務分掌・学年団・教科・学科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月13日に学校評議員会（学校関係者評価）を開催した。学校評議員会では、学校の取組みについて紹介し、保護者アンケート・教職員アンケートの調査結果について説明した。また、説明や資料を基に今年度の学校の取組に対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

### 《学校評価年間計画》

	生徒	保護者	職員	学校評議員
4月				・委嘱
5月	・授業評価の項目検討	・PTA総会	・学校評価 年間計画策定 ・学校自己評価 重点目標等策定	
6月				
7月	・授業評価 ・学校生活に関する 調査（第1回）	・学級懇談会 ・教科書選定 （PTA役員代表）	・授業評価分析	・第1回学校評議員会 （学校評価年間計画） ・教科書選定 （学校評議員代表）
8月				
9月	・授業評価報告	・総合祭		・総合祭
10月			・学校自己評価 （上半期）	
11月		・公開授業アンケート ・学校教育評価項目 検討		・公開授業アンケート
12月	・学校生活に関する 調査（第2回）	・学級懇談会 ・学校教育評価実施	・学校教育評価実施	・学校関係者評価 項目検討
1月	・インターンシップ アンケート（中止） （総合学科1年）			
2月	・インターンシップ アンケート （工業科2年）		・学校自己評価（年間） ・成果と課題、改善 の取りまとめ	・第2回学校評議員会 （学校関係者評価）
3月		・HPで学校教育評価 結果を報告		

## 2 評価結果のまとめ

### (1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団・教科の今年度の取組に対する自己評価結果は、年間では、3 = 「だいたいできている」が多かったが、教務部、国語で2 = 「少しできている」と評価が低かった。また、生徒指導部では、1 = 「ほとんどできていない」と評価が低かった。

全体的に新型コロナウイルス感染症対策を行いながらではあるが、総合祭やS-MART、工業科のインターンシップ等、昨年度実施できなかった行事の実施やICTを活用した授業活動の実施することができた。また、年間最終評価でも3 = 「だいたいできている」が大部分であったので、概ね当初の目標を達成したと考えられる。その反面、新型コロナに関する生徒の出席停止や欠席や遅刻の増加、服装や行動面で生徒指導が必要とする場面が増えており、来年度に向けて、欠席や遅刻の減少や服装や挨拶等の生活面等について対策を検討し、また検討した対策に関して教員間の共通理解を図り進めていく必要がある。

### (2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

昨年度と同様に、校務分掌、学年団の取組について、すべての質問項目に対して、A = 「そう思う」、B = 「だいたいそう思う」の肯定的な回答がほぼ8～9割であった。E = 「判断ができない(わからない)」の回答も昨年度と同様であり、学校での取り組みを知ってもらう必要性を感じた。また、教育情報部で本校のホームページや保護者専用のサイトの閲覧状況について調査したところ、「あまり見ていない」との回答が30%程度あり、積極的に情報発信をしているが、見てもらえていない状況である。今後、案内を積極的に行い、閲覧してもらえるように改善をする必要がある。また、「見てみたいが、方法がわからない」が7%程度いることから、情報機器の操作で躓いている保護者もいる。そのような保護者にも対応できるように検討する必要がある。また、保護者の意見の中に、家庭での学習課題や校則・自転車の乗車マナー等について、意見をいただいた。職員会議の中で、教職員間で保護者アンケートの結果について情報共有を行い、来年度に向けて対応を進めていく。

今年度も省力化、省資源化のためにアンケートをインターネット上のWeb入力で行い、教員の集計業務は省力化できたが、昨年度より微増したが回収率が65%程度だったので、今後も検討していきたい。

### (3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

各評価項目のほとんど昨年と比べ、評価は向上している。中でもICTに関する評価項目では、評価が高く、多くの先生方がICTを活用した授業の実践を行い、本校の教育効果を高めることができている。しかし、生徒指導に関する項目では「あまりそうは思わない」が増えており、職員の意見の中にも服装・頭髪指導で全職員の共通理解がとれていない意見があった。来年度に向けて、生徒指導面での共通理解図り、取り組みを行っていく必要がある。

その他にも非常ベルの誤動作や蛍光灯の交換できていない等、施設面に関する意見や授業時間数の確保、個別対応が必要な生徒への指導するための時間確保等、授業時間の確保や教科指導に関する意見をいただいた。今回の意見を参考に施設の修繕、定期的な点検の実施や行事の検討放課後等の会議等の整理や効率的な学校運営の方法等について検討し、改善を行っていきたい。

### (4) 学校関係者評価

- ① 探究や課題研究など生徒それぞれが各学科や系列の中で地域に根ざした活動に一生懸命取り組んでいる。学習成果発表会に参加したが高校生がここまでできるとは思っていなかったと好評の意見をいただいた。また、外部にも見てもらい、もっと総合高校を知ってもらえるのではと意見もいただいた。
- ② コロナ禍が続き、行事は縮小気味であったが、だいぶ復活してきているので十分に注意しながら、地域の人たちと交流を進めてほしいと意見をいただいた。
- ③ 進路意識を高める上でインターンシップや企業説明会、資格取得等社会に出る中で有意義なことであるのでしっかりと取り組んでほしい。また、生徒の能力や適性を判断して、指導に取り組んでほしいと意見をいただいた。
- ④ これからの時代はICTを活用した授業は大変有効であるので積極的に取り組んでほしいという意見をいただいた。
- ⑤ 小学校でのあいさつ運動への参加について、お褒めの言葉と地域貢献への感謝の言葉をいただいた。
- ⑥ 保護者アンケートの意見に生徒に対する対応についての意見がある。多忙な中、生徒一人ひとりに対応は難しく大変であるが、生徒の為に頑張ってもらいたいと意見をいただいた。

### 3 次年度の課題

- ① ホームページや保護者用サイトへの閲覧を増やし、本校の教育活動を知ってもらえるようにする。
- ② 今後も業務負担の軽減の面から、Webアンケートで実施するが、回答率を上げるための工夫を検討する。
- ③ 遅刻や欠席の減少、あいさつの励行等、社会に出ていくときに必要な習慣を身に付けさせる。
- ④ 生徒指導面で教職員での共通理解が図れていない部分もある。職員会議等で周知を行い、共通理解を図り、教職員全体で取り組みを進めていく。